

第14回 グリーン購入大賞 応募用紙

記入日： 2012 年 6 月 29 日

部 門	①	大手企業		
	2	中小企業		
	3	行政		
	4	民間団体・学校		
	5	協働プロジェクト		
※部門「該当するものひとつに○」を付けてください。				
応募 テーマ	1	グリーン購入の推進の取り組み		
	②	グリーン購入を促進させる製品・サービスの普及拡大の取り組み		
	3	グリーンコンシューマーの育成・増加への取り組み		
	特別テーマ	農・林・水産業に関わるグリーン購入の普及拡大の取り組み		
※応募テーマ「該当するものに○」を付けてください（複数でも可）。				
応募者の プロフィール	団体名	(フリガナ) エヌイーシーフィールドディング NECフィールドディング株式会社		
		※プロジェクトでの応募の場合は、こちらにプロジェクトに参加している主な団体名をご記入下さい。		
	応募担当者 連絡先	所在地:		
		部署名:	役職名:	
		氏名(フリガナ):		
		電話番号:	FAX番号:	
		メールアドレス:		
	ホームページ	http://www.fielding.co.jp/		
	資本金(企業のみ)	96億7010万円		
	従業員・職員数	単体: 5,474名(平成24年3月末)、連結: 6,170名(平成24年3月末)		
事業内容: コンピュータ・ネットワークシステムにおける以下のサービス等の提供 ①ハード/ソフトウェアのインストール・メンテナンスサービス、②システム導入時のコンサルタント、関連諸工事、③運用業務のアウトソーシングサービス、④システム・オペレーション教育、運用教育のトレーニングサービス、⑤関連用品等の販売				
グリーン購入の 取り組み状況	社内で使用する事務用文房具、事務用設備、OA機器の購入に際し、環境ラベル取得製品及び「エコ商品ねっと」等に掲載されている製品等をグリーン製品と定めてリスト化し、グリーン購入100%を目指して活動している。また、印刷物を印刷事業者に発注する際、「印刷サービス発注ガイドライン(GPN-GL14)」に沿った発注を優先し、CSR報告書や株主通信などで「GPN印刷サービスシンボルマーク」を有効活用している。			

応募内容 (前ページを含め、合計4ページ以内で記述して下さい。図や写真も使用可能です。)

1. 応募する活動の名称・タイトル

生物多様性保全活動と組み合わせたカーボンオフセットへの取り組み

2. 活動の概要

(1) 当社におけるカーボンオフセット活動 (2009年度~2011年度)

①通販カタログのカーボンオフセット

2009年以降、法人向けオフィス用品通販サービス「い〜るでいんぐ」のカタログの印刷・製本・輸送過程で発生するCO2に対するカーボンオフセットを実施している。2011年10月版の場合、カタログ1冊あたりのCO2排出量の算定値2.8kgを上回る3.0kg分をオフセットし、カーボンマイナスに取り込んでいる。これまでの活動におけるカーボンマイナス量は5期分の累計で約48トンに達している。(図1参照)



図1. 「い〜るでいんぐ」カタログの表紙(左)、及びカーボンオフセットの説明ページ(右)

②無停電電源装置(UPS)のカーボンオフセット

2009年10月より、当社製の省エネ効果の高いハイブリッド方式無停電電源装置(UPS)において、顧客が使用することで発生するCO2に対するカーボンオフセットを実施している。カーボンオフセットの対象は、BP-SHシリーズ6機種10モデルのUPS製品(2009年10月~2010年4月生産分)が効率優先モード運用時に消費する電力量の30日間分とした。

2010年5月からは、オフセット対象を30日間分から1年間分に拡大するとともに対象機種を拡大し、BP-SIシリーズ4機種においても運用時に消費する電力量の1年間分をオフセットした。2011年4月生産分までのオフセット量は、累計で約550トン分に達している。(図2参照)

なお、①及び②のカーボンオフセットで用いたCO2削減クレジットは、インドのマハラシュトラ州およびタミルナードゥ州にて運営されている2つの風力発電プロジェクトにより削減され、VCS(Voluntary Carbon Standard)事務局によって認証されて発行されたものである。

■電気料金削減額

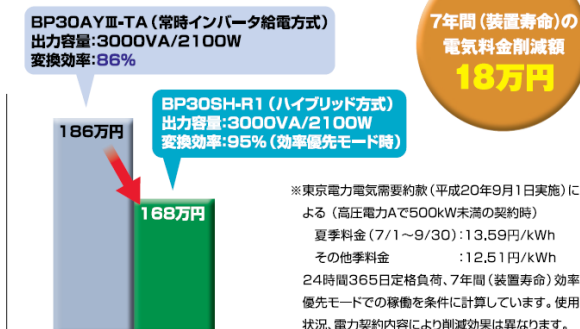


図2. ハイブリッド方式UPSの省エネ効果(左)、カーボンオフセットシール(中)、カーボンオフセット証明書(右)

(2) 生物多様性保全活動と組み合わせたカーボンオフセット活動（2012年度～）

当社では、地球温暖化防止と生物多様性保全のため、熱帯雨林を再生保護することを目的として、2005年度からインドネシア・東カリマンタン州で植林活動を行っている。2006年度からは、「フィールドイングの森」を作り、毎年継続した植林活動を行っている。

2011年には、中長期環境経営計画「フィールドイング環境経営行動計画 2017/2030」を策定し、生態系・生物多様性保全に向けた活動の強化を掲げた。その一環として、インドネシア・東カリマンタン州においてオランウータンの保護活動と生態系回復・保全のための植林事業を行っている BOS 財団(Borneo Orangutan Survival Foundation)に着目し、同財団への支援事業を本格化させた。2012年4月には、生物多様性保全、地球温暖化防止、地域社会の安定と発展を目的とした「オランウータンが棲む森づくりプロジェクト」をスタートさせた。

その中で、国連の CDM 制度や国内の J-VER 制度の方法論等を参考に、当社独自の CO2 算定基準を制定した。現在、この基準を元に、「オランウータンが棲む森づくりプロジェクト」において排出抑制される CO2 量を算定し、CO2 削減・吸収クレジットを創出していく準備を進めている。(図3参照)

今後、当社におけるカーボンオフセットにおいては、このプロジェクトから調達したクレジットを活用していく。今年度の「い～るでいんぐ」カタログにおいては、1冊あたりの CO2 排出量 2.37kg を上回る 2.90kg 分のオフセット(総量約 100トン)にこのクレジットを活用する。UPS においては、今年度中にクレジットの切り替えを行っていく。

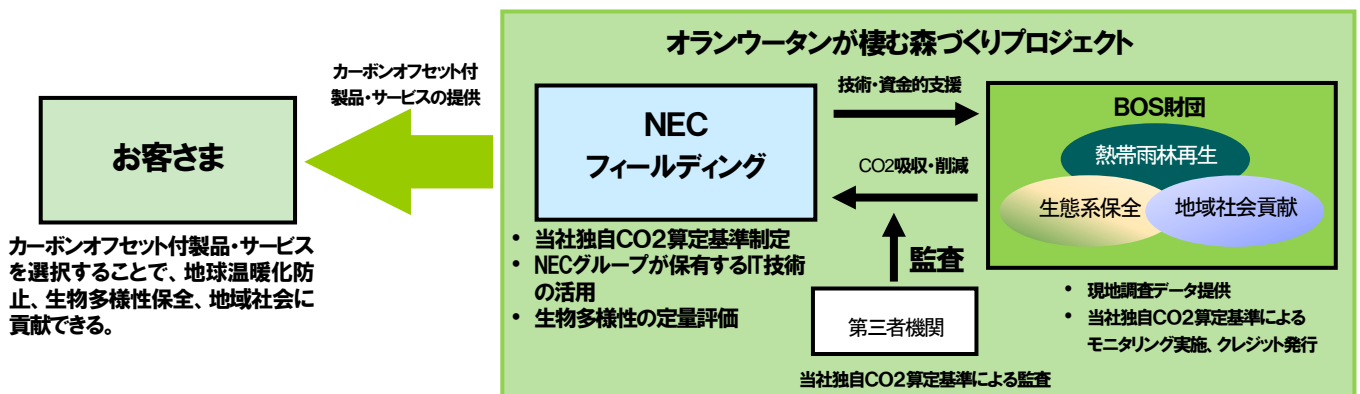


図3.「オランウータンが棲む森づくりプロジェクト」の概念図

(3) NEC グループの技術を活用した森林保全事業への展開（2012年度～）

BOS 財団では、森林保護区の運営を、森林保全(REDD)事業によって創出される CO2 クレジットの収益によって安定化させ、さらには雇用の確保等により地域社会への貢献も図っていく計画である。REDD (Reducing Emissions from Deforestation and forest Degradation)とは、伐採予定であった森林の保全によって CO2 排出を抑制し、その対価として売買可能な CO2 クレジットを創出する制度である。

インドネシア政府は、2009年に REDD に積極的に取り組むための法律を整備し、天然林伐採計画区域等を NGO 等が買って生態系回復事業を行うことができる事業権の REDD 事業への活用を認めた。2011年1月には、BOS 財団に対して、東カリマンタン州森林保護区(86,450ha)の事業権を発給し、2012年より、保護されていたオランウータンをこの森林保護区内に帰す計画がスタートした。当社の「オランウータンが棲む森づくりプロジェクト」では、この森林保護区における REDD 事業の支援を今後の大きな柱の一つとしている。

現在、当社では、クレジットの創出に必要な要素技術として、①IT 技術を活用した森林モニタリング、②森林における炭素吸収量及び排出削減効果の測定・報告・検証(MRV)方法論、③生物多様性の簡易型定量化手法、等の開発を NEC グループが保有する IT 技術を活用して行っている。なお、本事業で創出されるクレジットの予測量は、1,250万t-CO2/30年(34万t-CO2/年)に及び、当社ではその一部を調達して、カーボンオフセットの対象製品・サービスの拡大、さらには事業所のカーボンニュートラル化などにも取り組んでいく計画である。

【参考】「オランウータンが棲む森づくりプロジェクト」ニュースリリース <http://www.fielding.co.jp/news/htm/20120328.html>
「カーボンオフセット」Web サイト <http://www.fielding.co.jp/cr/eco/carbonoffset.html>

3. 活動による成果・効果（できるだけ具体的・定量的な内容をご記入下さい。）

・2009年度～2011年度に配布した「い～るでいんぐ」カタログ及び販売した UPS において、1000トンを超える CO2 をオフセットすることができた。特に UPS においては、政府関係機関・自治体におけるカーボンオフセットを条件とした入札に活用し、受注増につなげることができた。

・「フィールドイングの森」における植林活動では、2011年度までに2500本の植林を行い、年間82.5トン相当の CO2 吸収が見込まれる。社員による植林ツアーにはのべ80名が参加した。(さらには、「オランウータンが棲む森づくりプロジェクト」で支援する REDD 事業においては、年間34万トンのクレジット創出が見込まれる。)

4. 活動に関して、①先進性・独自性、②継続性・発展性についてご記入下さい。(各 200 字程度)

①先進性・独自性

多くの企業において自社製品へのカーボンオフセットが行われているが、その多くが CER 等のクレジットをプロバイダーを通して購入している。当社では、NEC グループの保有する IT 技術を活かして、クレジットの創出まで事業を発展させ、さらには生物多様性保全や地域社会への貢献といった価値を付加していくことにより、自社製品・サービスの環境価値のさらなる向上を目指して活動を行っている。このような活動は、当社独自のものである。

②継続性・発展性

REDD 事業における森林モニタリングにおいて、IT 技術を活用することにより、多量のクレジットを安価に継続して毎年得ることが可能になり、カーボンオフセットにおける対象製品の拡大とコスト削減につながる。(従来は、時間と費用がかかるため数年に一度のクレジット創出であった。) また、持続可能な林業及び環境に配慮した木材製品の普及、地域における産業振興につながり、将来的には二国間オフセット・クレジット制度での活用も見込まれる。